

ルート、発見場所は推測

二人がバラバラになる

70歳位の2名で那須（茶臼）岳へ。頂上でリフトの時間が気になったため一人が先行する形でバラバラになった。後続の一人が道迷いし、翌日発見され死亡が確認された。



22日午後5時前、一緒に登山していた友人が「茶臼岳付近で別れてから行方が分からない」と119番した。2人は茶臼岳から「那須ロープウェイ」山頂駅へ下山していた。女性が見つかったのは駅から東方向に約400メートルの場所。（HP参照）

道迷い遭難のパターンとして、「チームがバラバラになる」という事例がある。どんな理由があるにせよ、バラバラになってはいけない。一人になった時の不安は大きいからだ。道が整備されていて「こんなところで迷わないだろう」と思っても道迷いする事例は後をたたない。

季節は11月下旬、ロープウェイの時間に間に合わないかもという焦り、年齢、登山経験（この事例は不明）、いくつかの道迷いの要因があったと思われる。特に、時間に間に合わないという焦りは、些細な道迷いでも増大させることが多く、注意しなければならない。

最後の最後までチームで行動する。これが、登山の鉄則。最悪の事態になってしまってからでは、後悔しきれない。ご冥福をお祈りいたします。